

令和5年度 上尾市立東小学校 学校評価書

★自己評価の評価基準 A：できている B：どちらかと言えばできている C：どちらかと言えばできていない D：できていない

★学校関係者評価の評価基準 ☆自己評価と同じ評価の場合 → 自己評価は妥当であると判断 ☆自己評価と異なる評価の場合 → 学校関係者評価委員会としての見方を示す

領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
I 教育目標の具現化・円滑な学校運営	1	<p>■東小は、学校（学年・学級）運営や学習指導、その他の教育活動の工夫改善に取り組み、学校教育目標（元氣あふれる東っ子の育成）や目指す学校像（信頼を高める学校）の具現化に向かって、前進している。</p>	<p>◆安易な従前主義を排し、小さなことでも課題解決と改善を図るための検討や見直し、工夫に、熱意・誠意・創意をもって、真摯に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナにおける教育活動の進化 ・校長からの合言葉「チャンス・チャレンジ・チェンジ」の実践。 ・学校における働き方改革の推進を踏まえた上での価値ある取組の精選、実施 	B	<p>○学校は、教職員のチームワークを生かし、学校経営方針のもと学年や分掌の組織を活用し、日々の教育活動に取り組んでいる。</p> <p>○保護者や児童からの信頼をより高めるために、コミュニケーションを大切にし、アフターコロナの中、様々な教育活動に取り組むことができたため。</p>	A	<p>・令和5年度の学校運営については、学校が実施している様々な事業を見極めていく段階だと感じている。そうした状況の中でも令和5年度中に改善できる部分については積極的に着手しており、来年度以降も従前の手法に囚われることなく働き方改革等が実施されることが期待できる。</p> <p>また、児童の下校時の見守りや祝祭日に開催されるPTA等のイベントについても協力することができる教職員が積極的に参加していることに好感が持て、チームワークがよいと感じる。</p> <p>・明るく元気な児童が多い。昨年度は授業中に、教室に入れない児童が複数人いたが進級し、しっかりと授業に参加できるようになっている。</p>
	2	<p>■東小は、信頼の向上に努めるため、積極的にマナーアップの実践に取り組んでいる。</p>	<p>◆児童から信頼される教師となり、保護者から信頼される教育を行い、地域から信頼される学校を創ることを念頭に置き、常に自らの振る舞いを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、丁寧な言葉遣いの率先垂範 ・電話のさわやかな受け方の実践 ・何事にも誠意ある丁寧な対応 ・児童の心に寄り添い、温かい人間関係の構築 	A	<p>◆学校は、今後も教職員全体でさらに共通理解を図れるようにし目標の達成に向けて、チーム東小としてさらに一丸となり、声をかけ合いながら取り組んでいく必要がある。</p> <p>◆学校は、働き方改革をさらに推進し、時間外在校時間、月45時間以内、年間360時間以内の実現を目指していく必要がある。</p>	A	<p>・登校時にスムーズに教室に入れない児童が少し見受けられる。全国の小中学校の不登校が30万人と増えていることから危惧される。その中でも、先生方は教室に入れない児童を迎えに行き、根気強く優しく丁寧に対応している。また、保護者の悩みや心配事にも親身になって相談になっている様子が多く見られる。</p> <p>・円滑な学校運営や質の高い教育を生み出していくためには、教職員間の関係が円満でなければならないと思う。そういった意味では、東小学校では、教職員がチームワーク行動をとり、日々の教育活動に取り組んでおり、児童に対して豊かな学びの場を提供しているのではないかと感じる。この関係性は、働き方改革においても効果を発揮すると思うので、引き続き強固な教職員間の連携を図るようお願いする。</p>
	3	<p>■東小は、教職員それぞれが能力を発揮し、各自の分掌（役割）や各学年が連携・協力して、質の高い学校づくりを目指す体制を構築している。</p>	<p>◆教職員それぞれがチームワーク行動を発揮して、組織力の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア段階に応じたチームワーク行動の重点の実践 ・毎日のグループウェアでの指示伝達・連絡事項の確認、情報共有、共通行動 ・深い学びを追求する教材研究 	A		A	

領域				学校関係者評価			
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言		
II 学力を向上させる学習指導	4	<p>■東小は、教職員研修を積極的に推進し、教職員の資質を高め、指導力及び業務遂行力の向上を図っている。</p>	<p>◆市委嘱研究1年目の取り組みを推進するとともに現職職員研修の充実に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究及び研究協議の実施 ・日々の業務に必要な研修の実施 ・グループウェアの記事をとおした自己研鑽 ・外部講師を招聘した研修の実施 	B	<p>○学校は、児童が分かると感じる授業を常に目指し、研鑽を重ねている。「英語活動動・外国語活動・外国語」の授業に焦点をあて、全学年で授業を公開し合う等、授業のブラッシュアップを行うことができた。</p> <p>○学校は「あげお学びのイノベーション」を推進し、ICT端末の活用率が飛躍的に向上したとともに、効果的な活用方法の向上を図ることができた。</p>	A	<p>・授業が分かりやすいということを児童を通して聞いている。今後も継続していただきたい。</p> <p>・コンピューターの活用については、クラスの児童全員がタブレットを用いた授業を行っていることを確認しており、積極的に授業に取り入れていることが伺える。</p> <p>・以前の授業参観では、パソコン室に移動してICTの授業が行われていたが、先日の授業参観では自分の教室で普通にICT端末を使った授業が行われていた。</p>
	5	<p>■東小は、教育課程や指導方法を工夫改善し、児童の主体的に学習に取り組む態度を高め、学力の定着に努めている。</p>	<p>◆創意工夫を生かした教育指導の実施、主体的・対話的で深い学びに通じる実践、基礎学力、学ぶための5つの力の育成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントの実践 ・学力向上プランの策定と実行 ・自己有用感を得られる場づくり ・一部教科担任制、コース別学習の実施 ・ユニバーサルデザインへの配慮 ・認めてほめて伸ばす教育の実践 	B	<p>○学校は、児童に読書を親しませる機会をつくるために、イベントを企画したり、図書館の環境を整えたりした。学校図書館の貸し出し数も昨年度よりも増加している。</p> <p>○学校は、児童の学力をさらに向上させていくためにも、個別最適な学びを保障できるよう常に指導方法の改善に取り組んでいく必要がある。</p>	A	<p>・東小は英語の授業を低学年から実施している研究委嘱校であり、低学年から英語に親しむことができる点等から英語教育が充実しているといえる。</p> <p>・子供たちは以前よりも英語に慣れ親しんでおり、楽しそうに学んでいる。</p> <p>・授業は、クラスごとに先生の教え方によって特色が異なり、それが良し悪しにつながる場合もあるが、英語活動・外国語活動・外国語の授業について、全学年で授業を公開し合う取り組みをしており、不足を補い、さらには相乗効果でより良いものになっていくことが期待され、とても良い取り組みだと思う。ぜひ、ほかの科目についても検討していただきたい。</p> <p>・読書については「図書館だより」を通して様々な施策を打ち出し、子供たちが読書に親しめるよう実践しているが、現代は動画視聴やテレビゲームが容易に楽しむことができる状況である。読書に親しむ児童を増やすということは以前よりも難しくなっていることから、読書に親しむ取り組みを一層推進してほしい。</p>
	6	<p>■東小は、コンピュータを活用する授業を推進し、充実させている。</p>	<p>◆「あげお 学びのイノベーション推進プラン」に基づく学習者用端末の活用を具体化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OJTを含むICT研修の推進 ・大型モニタ、児童用PCの活用推進 ・プログラミング教育の実践 ・「chromebook」の積極的な活用 ・「Google Workspace」のスキルアップ 	A	<p>◆学校は、今後も時代のニーズに合った教育を行うためにもICT端末の活用積極的に取り組んだり「英語語活動動・外国語活動・外国語」の授業スタイルの改善を図っていったりする必要がある。</p>	A	<p>・学校だより12月号によると前年度より学校図書館本の貸出数は5%増加している。1～4年生は週1.25～1.5冊の貸出数である。しかし、5・6年生は0.66～0.37冊と半数以下となることが課題であると考えられる。</p>
	7	<p>■東小は、英語に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図れる児童が育つように、外国語教育を充実させている。</p>	<p>◆全担任が、ALTとのコミュニケーションを図り、レッスンプランを計画し授業を進行できるように実践を積む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTとのコミュニケーションや連携 ・レッスンプランに基づく授業の展開 ・ALTと児童のスマイルタイム等の実施 ・担任が主体となった授業の構成 	A		A	
	8	<p>■東小は、読書に親しむ児童が育つように読書活動を推進し、充実させている。</p>	<p>◆学校図書館を活用する読書活動を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ ・学校図書館の環境整備 ・図書貸出の促進(一人2冊まで・週末読書の推奨) ・アピースマイル学校図書館支援員、学校応援団との連携 	A		A	

領域	端末の活用では			学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自評 己価	関係者 評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
Ⅲ 豊かな人間性を 育む教育（四つの心の育成）	9	<p>■東小は、あいさつをする心が育つように指導を充実させている。</p> <p>◆年間の生活目標として、重点的に指導するとともに率先垂範する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態把握 ・日々の指導 ・朝会等 ・保護者に協力依頼 ・児童が主体となった活動 	B	<p>○学校は、「心をこめてあいさつすること」と「心をこめてそうじをする」とを年間の生活目標として取り組んできた。進んであいさつができたり、お客様に自らあいさつをしたりしている児童が増えてはきている。</p> <p>○学校は、正しい言葉遣いができる児童を育てるために授業中等に呼名するときには「さん」をつけて名前を呼んでいる。また、ていねいな言葉遣いができる児童を称賛したり、不適切な言葉遣い等があった場合には、粘り強く、継続した指導を行っている。</p>	B	<p>・子供は、大人を見て、様々なことを学んでいく。学校では、先生方が率先して手本となり、元気のいいあいさつや丁寧な言葉遣いを行い、必要な指導をしていただいている。今後は、学校での取り組みをさくら連絡網で積極的に発信していただき、家庭における取組につなげることができれば、より豊かな人間性の育みにつながっていくと感じる。</p> <p>・コロナ禍であったこともあり、あいさつや正しい言葉づかいを用いたコミュニケーションを取ることが難しかった時間が長かったこともあり、そうしたコミュニケーションを苦手としている児童も一部に見受けられるが徐々に改善してきていると感じる。</p>
	10	<p>■東小は、時間を守る心が育つように指導を充実させている。</p> <p>◆生活目標に取り上げ、重点的に指導するとともに率先垂範する。</p> <p>◆3内容6項目12の規律ある態度達成目標の取組を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の指導 ・授業開始、終了時刻の厳守 ・学習準備とチャイム着席の指導 	B	<p>◆学校は、あいさつができる児童と進んであいさつすることが苦手な児童の二極化をなくすためにも、教師の率先垂範や児童会の取り組み、地域のあいさつ運動等に工夫を凝らしながら、継続していく必要がある。</p>	B	<p>・登校時の見守り中では、挨拶をこちらから挨拶をしても半数以上の児童が挨拶をしない。しかし、校内では半数以上が挨拶をすることができる。廊下ですれ違う時も、半数以上の児童が挨拶をすることができる。</p> <p>・この領域は家庭の影響・教育などが大きく関与するため、今後も家庭との連携が必要だと考える。</p> <p>・全体的にはチャイムによって児童は行動できている。</p>
	11	<p>■東小は、正しい言葉をつかう心が育つように指導を充実させている。</p> <p>◆生活目標に取り上げ、重点的に指導するとともに率先垂範する。</p> <p>◆3内容6項目12の規律ある態度達成目標の取組を推進する。</p> <p>◆場をわきまえたり、呼び捨てをしないで、ていねいな優しい言葉遣いで学習や生活ができるように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常指導 ・授業での実践 ・道徳科の時間 ・学級指導 ・ほめる教育の推進 ・公的な場では「さん」づけを徹底 	B	<p>◆学校は、丁寧な言葉遣いやもくもく清掃において、あらためて共通理解をし、今後も、粘り強い共通指導を継続していく必要がある。</p>	B	<p>・時間を守る規則正しい生活については、休み時間に校庭で遊んでいる子供たちがチャイムが鳴るとキチンと教室に戻っていく姿を見ることで、子供たちに規則正しい生活が浸透してきているといえる。子供を通して物事を集中して行っている様子が見て取れる。</p> <p>・学校訪問時、上級生に話しかけると、丁寧な言葉で返答する児童が少ない。</p> <p>・掃除では汚れている場所を写真に撮り「どうしてこなっているのか」「どうやって掃除をしたりよいか」等、授業の時間に話し合うと良いと考える。「あなたならどうするか」自分事に置き換えなければ、もくもくでも、話しながらも変わらないと考える。</p>
	12	<p>■東小は、もくもくと丁寧に掃除をする心が育つように指導を充実させている。</p> <p>◆生活目標の年間目標に掲げ、もくもくと集中し、心をこめた掃除ができるように清掃時間の指導にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の巡回指導 ・振り返りの実施 ・師弟同行 ・放送による啓発 	B		A	<p>・家庭では6歳の子供に掃除をさせる機会は多くはないのではないか。しかし、学校では1年生もちゃんと掃除をしている。教室や廊下の床も雑巾がけも行っている。</p>

領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
IV 健康・安全・体力向上	13	<p>■東小は、保健、歯科保健、体づくりなどの健康に関する教育を充実させている。</p>	<p>◆感染症の防止、むし歯予防、体力向上に関わる児童の意識とスキルを高められるよう指導を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健学習 ・歯みがきタイム、フッ化物洗口の実施 ・学校保健委員会の開催 ・学校医等との連携 ・体育授業の工夫 	A	<p>○アフターコロナにおける生活様式を健康教育部が中心となり実行してきたことにより、共通行動がとれた。</p> <p>○学校は、下校指導等の際に具体的な安全指導を行ったり、計画的に避難訓練を行ったりしている。</p> <p>また、登下校での地域の方の見守りやPTAの協力による自転車交通安全教室等の実施により埼玉県警本部長・埼玉県交通安全協会会長連名表彰「交通安全優良学校」を受賞した。</p>	A	<p>・児童に対するフッ化物洗口の実施や学校保健委員会で保護者向けに歯の健康についての講座を開催するなど歯科保健の取り組みが充実している。</p> <p>・数年前から、歯科保健コンクールで何回も受賞している。先生方の指導で給食後の歯磨きもしっかりと行っている。</p> <p>・小学生の体力は、コロナ禍もあいまって全国的に年々減少してきており、学校教育を行う上での課題でもあるかと思う。そのため、体育授業の充実を行っていくことは、とても良いことかと思うが、体力が大きく低下している児童もいることを鑑み、そういった児童も取り残されることのない授業をお願いする。</p> <p>・体育の授業では先生方は子供たちにしっかりと運動をさせ、子供たちも元気づく動いている様子が見受けられる。</p>
	14	<p>■東小は、生活安全・交通安全・災害安全の取組を充実させている。</p>	<p>◆けがや交通事故の防止、防災に関わる児童の意識とスキルを高められるようにする指導を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全学習 ・安全点検 ・通学路点検 ・避難訓練、防災訓練、消火訓練 ・不審者侵入への対応 ・心肺蘇生法体験学習 ・自転車交通安全教室 	B	<p>○学校は、食物アレルギーによる事故防止のために、対象児童の全保護者と管理職を含めた面談の機会を設定している。その上で、対象児童の保護者と毎月、給食の献立の確認を行ったり、毎日複数の教職員で給食の時間に確認を行ったりする等、組織的な対応を行っている。</p> <p>◆学校は、日頃から安全に関わる未然防止教育にさらに力を入れたり、校内の過ごし方について定期的に指導をしていく必要がある。</p>	A	<p>・登下校に関しては、教職員による登校時の学校周辺の旗振りや下校時の付添いが実施されている。学校の西側に道路が開通したことに伴い、警察へ横断歩道の設置の要望を行っており、登下校の安全確保に積極的に取り組んでいる。また、自転車教室を実施することで児童に対する学校時間外の交通安全の意識を醸成することにも努めている。</p> <p>・毎日の登下校では地域の見守り隊が街角や交差点で通行の誘導をしている。低学年の児童とは、一緒に歩いて下さる方もいる。</p> <p>・日頃から安全の取組として、警察との連携や様々な学習等を通して児童の啓発に努めていることと思うが、学校生活における一番身近な危険は、通学時間にあると思う。現在の働き方改革により、学校内と外とで少しずつ線引きが図られてきていると感じるが、危険回避の一翼をにんじていただいている、地域の見守り隊との連携を引き続き図っていただき、児童が楽しい学校生活を送れるようお願いしたい。</p>
	15	<p>■東小は、食に関する指導を充実させ食物アレルギーによる事故防止にも丁寧に対応している。</p>	<p>◆バランスのとれた食事の大切さを理解させ、実践できるようにする指導を充実するとともに、食物アレルギーによる事故防止の取組を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応マニュアルの実践 ・アレルギー対応児童の保護者面談 ・食育の充実 ・早寝 早起き 朝ご飯の啓発 	A	<p>◆学校は、児童の体力向上のため体育授業や、東小スポーツdayを工夫して実施してきた。今後も、コロナ禍の影響でより深刻になっている体力の二極化に係る方策として、さらなる体育授業の充実を図っていく必要がある。</p>	A	<p>・食に関する指導については、「給食だより」を通して様々な試みを行っていることが伺えるが、野菜が全般的に苦手であったり、好きなものだけ一気に食べてしまうといった偏った食事を取ってしまうようなことが一部で見受けられたので、食育についてより一層充実させていただきたい。</p>

領域	学校関係者評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自評 己価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者 評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
V 教育環境の整備	16	<p>■東小は、安全・衛生・美化の観点から施設や校舎内外を整頓し、整備を進めている。</p>	<p>◆児童が安心して学べる安全で清潔で潤いのある教育環境の点検と整備に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月例安全点検及び臨時点検、点検結果への対応 ・小破修繕の実施 ・花壇の整備 ・市教育委員会と学校応援団、保護者との連携 	A	<p>○学校は、安全点検や校内巡視により、施設等の維持、修繕に努めている。また、PTAの方々のトイレ清掃、校庭の環境整備作業、学校応援団の協力による「緑のカーテン」や花壇の整備等の環境整備を支援していただいている。</p> <p>○学校は、学習環境が整えられるような掲示を心がけ、展示場所を工夫したり、季節感や教育的な効果を意識し、計画的、意図的に児童の作品や掲示物を、掲示し整備している。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の廊下や階段にゴミやちりが落ちていることもあるが、教室内の床はきれいで、棚なども整理されている。 ・学校応援団やPTA等の協力を得ながら、トイレ清掃、校庭環境整備、緑のカーテンの設置や花壇の整備を実施することで校内環境の美化に努めている。 ・教室や廊下、階段にたくさんの作品が展示してあり、学年が上がるにつれ、成長の過程をみることができ、拝見するのがとても楽しみである。 ・授業参観で校内を巡回すると、児童の作品や英語にまつわる掲示物など、色とりどりでかつ、児童の学校生活が垣間見れるものなどが校内にあふれており、学校環境としてとても豊かであると感じる。来校された地域の方や保護者の方を出迎える装いとして、また心を豊かにしてくれるものであり、引き続き中と外を意識した掲示等を行ってほしい。 ・校内環境については音楽会で使用した作品を展示するなど児童に学習への意欲を持たせるような工夫がされていたり、廊下を走らないことや進行方向の指示についても適切に表示されている。一方で、来年度で開校55年を迎えることから、校舎の老朽化も進んでいるため、引き続き教育委員会と連携を取りながら必要な修繕を実施してほしい。
	17	<p>■東小は、教室や廊下などに適切な掲示を行い、教育環境を整備している。</p>	<p>◆季節や行事、学習内容・指導内容に合わせた作品の展示や掲示物の作成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彩りや構成の考慮 ・あるべき所に必要な掲示 ・ユニバーサルデザインの考慮 ・児童作品の適切な取り扱い 	A	<p>◆学校は、常に学校が児童にとって安心して学べる場所であるように、自分たちでできる小破修繕を継続するとともに市教育委員会と連携し、計画的に大規模な修繕も行っていく必要がある。</p>	A	
領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自評 己価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者 評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
VI 保護者・地域・関係	18	<p>■東小は、学校の方針や取組、児童の様子などが伝わるように積極的に保護者や地域に情報を提供している。</p>	<p>◆学校の方針や取組、教育活動の様子が伝わるようにホームページや便りさくら連絡網等とおして、保護者や地域へ情報を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新 ・学校便りの充実 ・さくら連絡網の活用 	A	<p>○学校は、さくら連絡網やホームページを活用し、学校の様子や連絡事項について保護者や地域の方がへ伝えてきた。特に、さくら連絡網では、不審者情報や台風の際の対応等、素早い情報提供が必要な場合に効果的に活用することができた。</p> <p>○学校は、PTA、学校応援団、おやじの会、学校開放委員会、青少年育成連合会等に協力をいただき、教育活動・教育環境の充実に取り組んだ。特に、今年度は、4年ぶりにPTA主催の「東っ子フェスティバル」を開催することができた。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信については、日々の連絡や「学校だより」等の配布物については、さくら連絡網を活用することで保護者と密に連携が取れている。現在は、イベント実施後の写真の掲載についてもさくら連絡網で行っているが、さくら連絡網にリンクを貼り学校ホームページのイベントページに誘導し大きな画像で見てもらおう等、ホームページをより活用してもよいと思う。 ・ホームページはきちんと更新され、学校だより、行事予定、学年だより、ほけんだより、給食だより等の情報が発信され、充実している。さくら連絡網は緊急時に非常に役立っている。 ・学校応援団が行っている環境整備、読み聞かせ、トレイ清掃等一部の委員だけが活動しているが、多くの委員が関わることができればと考える。先生方を除いた委員はそれぞれの活動を分担し、活動日に参加ができると良い。 ・コミュニティスクールとしての活動については、様々な外部団体と協力しながら、「緑のカーテン」、「トイレ清掃」、「110番の家スタンプラリー」、「防災キャンプ」、「挨拶運動」や「東小フェスティバル」等の様々なイベントや活動を行っており、地域と連携して教育環境の充実を図っている。
		<p>■東小は、コミュニティ・スクールとして学校応援団（保護者や地域住民・関係団体等）の協力を生かして、学校運営や教育活動を充実させている。</p>	<p>◆保護者・地域の協力を仰ぎながら児童の登下校の安全確保や学習活動の充実教育環境の整備に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での熟議 ・PTA（おやじの会含む）、学校応援団等との連携 				

・学校応援団感謝の会の工夫

A

◆学校は、より情報を保護者や地域の方々にわかりやすく伝えていくために、現在あるツールを活用し、工夫していく必要がある。

A

・コロナが5類に移行したことで、以前の学校生活に戻り地域の人たちとの関わりも少しずつ戻りつつある中で、学校では働き方改革が進み、以前は学校と外との境目があいまいであった部分が、今後より明確に線引きされていくことが予想される。そのため、今までは形を変えながらも、地域の方たちが子供たちのために協力したいと思えるような、関わり方を検討し、良好な地域との連携が図れるようにしていただきたい。